

今回確認されたミヤコドリ2羽について

1. 足環装着場所と渡来地

- 千葉県に渡来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印 T6；右すねに金属足環）

観察地：千葉県船橋市三番瀬干潟

観察日：2019年9月25日、
2019年10月27日、30日、
2019年11月13日

- 三重県に渡来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印 T7；右すねに金属足環）

観察地：三重県津市安濃川河口

観察日：2019年9月27日
観察地：三重県津市雲出川河口
観察日：2019年9月28日、
2019年10月16日



今回のミヤコドリの足環装着場所と渡来地

2. 渡来地及び足環装着場所での写真

- ▼千葉県に飛来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印 T6；右すねに金属足環）



2019年9月25日千葉県船橋市三番瀬 田久保晴孝氏撮影



2019年11月13日千葉県船橋市三番瀬 伊東紘氏撮影

- ▼三重県に飛来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印 T7；右すねに金属足環）



2019年9月27日三重県安濃川河口 Katsuta K. 氏撮影



2019年10月16日三重県雲出川河口 片山賢一氏撮影



2019年7月15日 ロシア・カムチャツカ半島ハイリュゾヴァ・ヴェロゴロバヤ河口（足環を装着した際の写真）
ドミートリー・ドロフェーエフ氏提供



2019年7月15日 ロシア・カムチャツカ半島ハイリュゾヴァ・ヴェロゴロバヤ河口（足環を装着した際の写真）
ドミートリー・ドロフェーエフ氏提供

（参考1）ミヤコドリとは

学名 *Haematopus ostralegus*

チドリ目ミヤコドリ科 全長 45cm

ミヤコドリはおよそハシボソガラスぐらいの大きさの水鳥で、羽色は黒と白で、太くて長い赤いくちばし、ピンクの足がよく目立つ。海岸や河口の干潟や砂浜、岩の多い海岸などに生息し、主に二枚貝を食べる。ユーラシア全体に不連続に繁殖分布し、冬はアフリカ大陸から南アジア、中国南部などの沿岸に渡って過ごす。日本では全国の海岸で旅鳥または冬鳥で、従来は稀だったが、近年、東京湾と伊勢湾を中心に渡来数が増加している。東京湾奥部の千葉県の上総干潟では、1980年代後半から群れが観察されるようになり、近年は300羽を越える個体数が越冬するようになった。伊勢湾西側の海岸では2000年以降増加し、近年は約80～100羽程度が毎年観察されている。

なお、伊勢物語などの文学に登場する「都鳥」は、本種とは別の鳥であるユリカモメ（チドリ目カモメ科）とされている。

（参考2）カラーフラッグとは

渡り経路を調べるためにシギ・チドリ類などの脚に装着するプラスチック製の「旗」。場所ごとに色の組合せを変えて使われ、文字や数字が刻印される場合もあり、双眼鏡や望遠鏡による観察でどこから飛来したかを確認できる。鳥の体に負担にならない形状と重量に設計されている。

【この件についての問合せ先】

※写真のデジタルデータをご希望の方も御問い合わせください。

●千田万里子 山階鳥類研究所
保全研究室専門員

電話：04-7182-1107

eメール：senda@yamashina.or.jp

●平岡考 山階鳥類研究所
広報コミュニケーションディレクター

電話：04-7182-1101

eメール：hiraoka@yamashina.or.jp